



平成 28 年 6 月 30 日(木)  
練馬区立開進第四小学校  
校長 佐々木 秀之

# 開四小だより

## 7月号

### 2020年東京大会エンブレムが教えてくれること

副校長 桐敷 芳子

4月末、東京オリンピック・パラリンピック大会組織委員会のエンブレム委員会は、最終候補4作品の中から、藍色の市松模様で日本らしさを表現した「組市松紋（くみいちまつもん）」を新しいエンブレムとして選びました。制作者は、東京在住のアーティスト、野老 朝雄（ところ あさお）さんです。テレビや新聞などで、実際のデザインを見た方も多いと思います。学校では、ポスターなどを教室や体育館に早速掲示しました。

作品については、「歴史的に世界中で愛され、日本では江戸時代に『市松模様（いちまつもよう）』として広まったチェッカーデザインを、日本の伝統色である藍色で、粋な日本らしさを描いた。形の異なる3種類の四角形を組み合わせ、国や文化・思想などの違いを示す。違いはあってもそれらを超えてつながり合うデザインに、『多様性と調和』のメッセージを込め、オリンピック・パラリンピックが多様性を認め合い、つながる世界を目指す場であることを表した。」と、紹介されています。発表会で野老さんは、「とても長く時間をかけて作図したもので、我が子のような作品です。」と挨拶し、さらに、「オリンピックもパラリンピックも同じピースを組み立てていくというのはずっと考えてきたことです。両エンブレムの四角形が一緒なのはパラリンピックにもある平等の精神を意識した。」と話しています。どちらも四角形の数が同じであるだけでなく、内側の半径も等しくさらには双方の違いは四角形の配置だけで、どちらも3種類の四角形を同じ枚数・角度・大きさで使われていることも話題になりました。

エンブレムのモチーフとなった市松模様の他にも日本には様々な文様があります。例えば、青海波、麻の葉、宝づくし…。自然や身近な生活に関するものやことが印象的・象徴的にデザインされていて、豊かな造形感覚に驚かされます。日本の優れた表現力がメッセージとともに世界に発信されると思うと、競技としてだけのオリンピック・パラリンピックを超えて、誇らしく、心躍るものがあります。

学校では、これからのリオデジャネイロ大会・東京大会に向けて、オリンピック・パラリンピック教育が始まっています。様々な学習活動を通してオリンピック・パラリンピックについての理解を深め、自分にできることは何かを学んでいきます。子供たちには、今回のエンブレムが教えてくれるように、自分の感じ方・考え方を表現の核としながら、異なる文化をもつ人々によりよく伝え、つながることの大切さを学んでほしいと思います。互いによさや違いを知り、認め合うことは、自分自身のよさを自ら誇りとし、さらに高めることに他ならないと考えるからです。